

# 館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八八一九二葉第三ビル2  
 TEL 03-3264-1863  
 FAX 03-3264-1866  
 館山塾

contents

夏期講習詳細……………	2面	夏期不受講の諸君……………	3面
前期終了試験……………	3面	東大合格への道(Ⅱ)……………	4面

## お知らせ

### ★保護者面談(中学の部・個人面談(高校の部)

保護者面談、個人面談を実施します。塾での学習の様子、夏休みの学習の指針について、各科目担当講師(中三及び高校生は担当チーフ)が個別にアドバイスをします。中学生は提出された面談申込書をもとに日時を決定し、七月上旬にお知らせします。また高校生は、担当チーフと相談のうえ、面談日時(個人面談)を決定します。

### ★個人記録カードの提出について

個人記録カードをまだ提出していない諸君は、面談が受けられませんので、早急に提出して下さい。

### ★入試情報

高校・大学入試説明会に関する案内は、随時お知らせしています。左記の場所に置いてある資料は、自由に持ち帰って戴いて構わないものです。

### 2階 エレベーター前

### ★中三模擬試験のお知らせ

館山塾では、七月以降、中三生を対象に、模擬試験(進研・駿台)の受付をしています。模試の結果は、志望校決定の資料として利用できるほか、推薦入試の資料としても活用できます。詳細は、各回の締切前に教室で配布します。

### ★高三対象オプション講座について

夏期講習期間中、通常の講習以外に、高三生の希望者を対象とした講座を開設しています。各自の講習日程と組み合わせ、実力アップに是非活用して下さい。

期間①	八月十八日(月)～二十一日(木)
期間②	八月二十三日(土)～二十六日(火)

科目	担当	期間
現代文	三輪裕治	期間A
古典	胡子俊英	期間B
世界史	佐治 恵	期間A
日本史	佐治 恵	期間B
数I IIA B	熊倉幹男	期間B
数III C	松山秀行	期間A
数I IIA B	松山秀行	期間A
数I IIA B	松山秀行	期間B

詳細は、同封の「オプション講座のお知らせ」 教室で生徒諸君にお渡ししているものと同一ものです)をご覧ください。

### 7月～8月の予定

#### 中高共通

七月十五日(火)……………	平常講義終了
七月十九日(土)～二十一日(月)……………	面談
七月二十三日(水)～二十六日(土)	夏期講習期間①
七月二十八日(月)～三十一日(木)	
八月二日(土)～五日(火)	夏期講習期間②
八月七日(木)～十日(日)	
八月十一日(月)～十七日(日)……………	休講期間
八月十八日(月)～二十一日(木)	夏期講習期間③
八月二十三日(土)～二十六日(火)	
八月二十七日(水)……………	
八月二十八日(木)……………	前期終了試験 高三)
八月三十一日(日)……………	平常講義開始

#### ☆補講について

中学生及び高校一・二年生を対象に、講習以外の期間(期間③)に、補講期間を設けています。これは、夏期講習をより一層実り多いものにするための個別指導を行う期間です。詳細は、2頁をご覧ください。

~~~~~  
夏期特別講習のお知らせ  
~~~~~

~~~~~  
一、期間 ~~~~~

◎中学生 英・数・国 中三理社◎

※夏期特別講習の期間は、各科目、次の①、②のどちらか一方の八日間になります。

期間①：七月二十三日水～二十六日土

及び二十八日月～三十一日木

期間②：八月二日土～五日火

及び七日木～十日日

☆中三で理科・社会を選択する場合は、英・数・国とは別の期間で受講することになります。(例えば、英数国が期間①なら、理社は期間②)

※中三演習講座

期間③：八月十八日月～二十一日木 Aクラス

八月二十三日土～二十六日火 Bクラス

※中学生特別個人指導

期間③：八月十八日月～二十一日木

又は八月二十三日土～二十六日火

☆八月二十七日水は、期間①と期間②の受講者及び講習不受講者を含む全員を対象に、前期終了試験が実施されます。

◎高校 一年生◎

期間②：八月二日土～五日火

及び七日木～十日日

◎高校二年生◎ 英数国は期間①

期間①：七月二十三日水～二十六日土

及び二十八日月～三十一日木

期間②：八月二日土～五日火

及び七日木～十日日

期間③：八月十八日月～二十一日木

及び二十三日土～二十六日火

◎高校 一・二年生特別個人指導◎

期間③：八月十八日月～二十一日木

及び二十三日土～二十六日火

☆八月二十七日水は、高一・二生(講習不受講者を含む)全員を対象に、前期終了試験が実施されます。

◎高校三年生◎

期間①：七月二十三日水～二十六日土

及び二十八日月～三十一日木

期間②：八月二日土～五日火

及び七日木～十日日

期間③：八月十八日月～二十一日木

及び二十三日土～二十六日火

☆八月二十八日木は、高三生(講習不受講者を含む)全員を対象に、前期終了試験が実施されます。科目数の多い諸君は一部を二十七日水に実施します。

二、クラス割 ~~~~~

☆原則として平常のクラス編成のまま講習は行われますが、時間割の都合上、一部のクラスのみ、講習用クラスに編成されています。

各自のクラスは、教材とともに配布された講習クラス通知票を参照して下さい。

三、特別個人指導 ~~~~~

☆特別個人指導は、夏期講習受講者を対象に、講習以外の期間に個別指導を行うものです。学力に余裕のある諸君には発展演習を、部活動等で欠席して理解不十分な諸君には補習を、と担当講師が塾生一人一人の状況に応じて、講習の成果をより一層確実なものにするためのシステムです。講師の側から強制的に呼び出す場合の他、塾生諸君が自主的に参加して質問や自習を行う時間帯としても活用できます。利用に際しては、予約が必要です。

対象 中学生～高校一・二年生の講習受講者

不受講者は3頁の「君」を(覧下さい)

科目 英語・数学・国語及び中三の理科・社会

期間 八月十八日月～二十一日木

及び八月二十三日土～二十六日火

☆特個の時間・教室等詳細は、講習中に書面で通知します。

☆特個は自主参加する場合も予約が必要です。

予約に際しては各担当に直接申し出て下さい。

四、自習室 ~~~~~

対象 全員

場所・時間 掲示でお知らせします。

## 五、講習用教材の配布

☆全学年、六月下旬から各教室で配布していただきます。十分に準備をした上、講習に臨むようにして下さい。

## 六、前期終了試験

―中学生及び高校 一・二年生―

☆八月二十七日(水)に、中学生・高校 一・二年生全クラスを対象に前期終了試験を実施します。

☆試験科目は、中学生は英・数・国の三科目(中三のみ理科・社会選択者は、五科目)、高校生は英・数・国の受講科目及び日本史・世界史・物理 I です。各本史・世界史・物理 I は高 2 の日程に合わせて試験を実施します。

☆中学生で単科受講者は、受講科目のみの試験となります。

☆試験の時間等の詳細は、各自の受験票(八月中旬に郵送)でお知らせします。

☆試験は、既習全範囲の実力試験です。

―高校三年生―

☆八月二十八日(木)に前期終了試験を実施します。受講科目の多い諸君は一部二十七日

に実施)。

☆試験科目は各自の受講科目です。物理総合、化学総合及び英語(英文解釈と英作文法)は二講座で一つの試験となります。

☆試験の時間等の詳細は、各自の受験票(後日配布)でお知らせします。

## 七、中三演習講座

☆中三生を対象に、講習とは別に、A・Bそれぞれのクラスに対応した演習講座が四日間、開設されます。

☆演習講座では、入試に即応した演習と解説が行われ、毎日、3科又は5科の成績表が渡されます。

☆各自の受講科目数に応じて、3科又は5科で実施されますので、特別な申し込みは必要ありません。

☆平常理社を受講していない場合でも、演習のみ理社の受講が可能です。受講を希望する場合は、事務までお申し出下さい。

## 八、後期クラス編成

☆前期が終了する八月の時点で、三月からの平常の成績及び総合試験の成績から、新たにクラスを編成します。なかでも、前期終了試験の成績が最も重視されます。

☆前期終了試験は、欠席するとクラス編成に支障をきたします。必ず受験して下さい。やむを得ぬ

事情で欠席する場合は、理由を明記した欠席届けを、事務まで提出して下さい。

☆欠席した場合は、必ず、振替受験日に受験することになります。

## 九、講習不受講の諸君

☆講習不受講であっても、既習全範囲の習熟度の確認のため、前期終了試験を受験することになります。

☆日時は、後日郵送される受験票で確認して下さい。

☆九月からの講義にスムーズに参加するため、講習用の教材を購入して出来る限り自習して下さい。購入は、事務まで申し出て下さい。

☆講習期間の特別個人指導は講習受講者を対象としたものです。不受講者は参加できません。講習不受講の諸君で質問等がある場合は、講習期間に個別指導(有料)の講座を別途設けますので、希望される諸君はお問い合わせ下さい。

なお、個別指導の担当講師は、講習時間割の関係で、ご要望に添えない場合がありますので、予めご了承下さい。

## 十、夏期休講日について

☆八月十一日(月)～十七日(日)以外の休講日については、年間カレンダー・塾内掲示板・ホームページなどでご確認下さい。

## ▲▽ 東大合格への道 ——塾講師の子育て論—— 第二回 ▽▲

胡子俊英

東大の入試結果がわかりました。ぎりぎりでした。センター試験 900 点を 110 点に換算し、二次試験 440 点を加えた 550 点満点で、合格最低点 341 点に対して、息子の成績はわずか 5 点上回っているだけでした。それに比べると、原田君のお兄さん（2006 年度）や守屋君のお兄さん（2005 年度）は、合格者平均を遥かに上回っての合格でしたから立派なものです。

東大入試ではもう一回試験を行えば、半分位は合格者が入れ替わると言われています。紙一重のところにとくさんの受験生が集中しているということですから、わずかなミスが合否を分けます。これはどの入試にも言えることです。

そこで重要になるのが、ミスをしない集中力です。

**集中力も実は忍耐力から**

集中力と言っても、入試は長時間に渡ります。特に東大の二次試験は短い科目で 100 分、長い科目では 150 分もあり、しかも試験が二日間続きます。私立受験の人も、試験日が連日になることはよくあることで、集中力を持続させることが実は合否を決める一番重要なポイントになってくるのです。

となるとここで大切なのは、瞬発力よりは持続力、耐久力だということがおわかりになると思います。そして、学力を養う時に一番重要なポイントは、忍耐強く勉強に取り組む姿勢だということを考え合わせると、受験に強くなる第一の条件は、忍耐力だと言えます。

**忍耐力特訓メニュー**

我慢強い性格はどうやったら養えるのか。これはもちろん小さい時から親が接する時に、親の方が辛抱強く接するということが第一でしょう。幼い子供は何かと要領が悪いので、親がつい手を出したくなりますが、そんな時はぐっとこらえて見守ることに徹することで、子供の忍耐力はかなり養えるのではないかと思います。その上で私が実践したのは、登山に連れて行ったことです。

本当は忍耐力を養うためと思ってやったのではなく、単に私の趣味に過ぎなかったのですが、これが結果的にかなり有効だったと思われるのです。

**自分の足で歩け**

息子が小学校五年生の夏、北アルプスの常念岳（2857m）に登りました。コースタイムは五時間程度と書いてあったので、子供の足で倍かかっても夕方には小屋に着くだろうと計算していました。北アルプスのかなり本格的なコースでもあり、小学生は珍しく、たくさんの登山者達に、「頑張ってるねえ」と声を掛けてもらいました。そのうち、たくさんいた登山者達にはどんどん抜かれ、雨も降り出し、登山道には私達親子だけが取り残された形になりました。ところが、私の持っていた地図が古かったせいか、行けども行けども着きません。最後の地点から小屋まで一時間半と書いてあったのに、間違いなく三時間は歩いています。しかし、ここまで来たら、引き返す方が時間がかかります。朝からもう八時間は歩き続けていてへとへとですが、とにかく小屋まで行くしかありません。

雨で濡れた登山道は滑り易く、ここで足を傷めたら大変。「遭難」の文字が頭をよぎります。しかし、自分の足で歩いていく以外に、この場を乗り切ることはできませんから、甘い顔を見せるわけにはいきません。とうとう息子は泣き出しました。泣きたいのはこっちです。私一人ならとくに小屋に着いています。こんなことなら連れて来るのではなかった。しかし、後悔しても始まりません。「泣いても小屋は近付かない。怪我をしないように気を付けて、しっかり歩け」と檄を飛ばしながら、小屋を目指しました。あのカーブを曲がったら小屋が見える、あの木の向こうに小屋があると何度思ったでしょう。とうとう、煙の臭いがして来たので、今度こそ小屋が近いぞと思ったら、幻聴ならぬ幻象でした。それから更に一時間近く歩いてようやく本物の小屋が見えた時には、夕闇が迫っていました。

夏の山小屋のことですから超満員です。到着が遅かったので小屋は既にいっぱいでしたが、子供連れだと山小屋のバイトのお姉さんも親切にしてくれて、医務室の二階のわずかなスペースを見つけて入れてもらえました。

その後も、針ノ木岳（2821m）の凍結した雪渓や、越後三山の一つ、中ノ岳（2085m）で、滑落したら絶対助からない雪面をアイゼンもなしで下るといふ無謀な登山も経験しました。本当に命の危険に直面するという体験は、それまで眠っていた DNA のスイッチが入る感じで、原始の生命力に目覚める気がしました。この辺りの経験は、受験はもちろん、生きていく上での力になっているのではないかという気がしています。

**子供の自立**

息子と最後に山へ行ったのは、中一の時でした。その後は二人でどこかへ行くということもありません。受験に関してもあまり話をするということもありませんでした。後は私が直接関わるよりも、学校や塾の先生といった信頼できる指導者に任せられた方がいいというのは、自分自身が中学・高校生だった頃の経験からも感じていました。幸い、中学（中野区立）、高校（国立）、塾（館山塾）といずれも良き指導者に恵まれ、息子は順調に育ってくれました。後は本人の責任で生きていってくれるものと思っています。私の目下の関心は、林住期に入った今、それにふさわしい生活を送ることです。おっと、まだ下の娘は中学に入ったばかりだということを忘れていました。もうしばらくは、世俗で頑張らねばならないようです。